

# ACSI形式になったワケ + 考える会のころ

田浦健次郎 (東大)  
八杉昌宏 (九工大)  
岩下武史 (北大)

# 経緯の復習

1. SACIS 2012 タウンホールミーティング：主に「国際会議化」というトーンでアナウンス
2. SWoPP 2012 タウンホールミーティング
3. SACSIS 2013 SACSIS の今後について：ACSI 形式（英語投稿; 査読する; 予稿集出さない）をアナウンス
  - ▶ 方針を決めていた主体は、SACIS 運営委員会 (SACIS SC)
  - ▶ 田浦は 2012 タウンホール以降に SC に参加

## 経緯に関する自分の関与・思想

- ▶ タウンホールでは、(よくあることだが)まあ多くの人  
は沈黙; だが「SACISIS 国際会議化」に賛同が多かった  
とは感じなかった
- ▶ 個人的にも「寒い国際会議 < 盛り上がる国内会議」
- ▶ 国際会議は文字通り、世界に無数にあるというのも躊躇  
の理由

## 経緯に関する自分の関与・思想

- ▶ 「国際的プレゼンスをあげる」 ≠ 国際会議の開催

## 経緯に関する自分の関与・思想

- ▶ 「国際的プレゼンスをあげる」 ≠ 国際会議の開催
- ▶ SACISIS に対しては「真面目に査読もし、レベル的に高いものも多いのにそこで終わるのはもったいない」というのはよく聞かれた

## 経緯に関する自分の関与・思想

- ▶ 「国際的プレゼンスをあげる」 ≠ 国際会議の開催
- ▶ SACISIS に対しては「真面目に査読もし、レベル的に高いものも多いのにそこで終わるのはもったいない」というのはよく聞かれた
- ▶ ⇒ SACISIS に出すためのエフォートが、効率よく「国際的プレゼンスをあげる」につながるようにするのが、新会議 XYZ を設計する側の役割では？

## 経緯に関する自分の関与・思想

- ▶ 「国際的プレゼンスをあげる」 ≠ 国際会議の開催
- ▶ SACISIS に対しては「真面目に査読もし、レベル的に高いものも多いのにそこで終わるのはもったいない」というのはよく聞かれた
- ▶ ⇒ SACISIS に出すためのエフォートが、効率よく「国際的プレゼンスをあげる」につながるようにするのが、新会議 XYZ を設計する側の役割では？
- ▶ ⇒ XYZ に出した論文を「そのまま」国際会議に出せるようにする ⇒ 論文集を発行しない

## ACSIの他の側面

- ▶ **なぜ投稿が英語のみ?** → 国際会議に出すときの2度手間を discourage し, 最初から英語化を「推奨する」という意味合い(著者が選べば良い, 日本語を禁止する必要はない, という説あり)
- ▶ **なぜ査読する?** → 次のところへ出すためのフィードバックを返すのは著者にとって有用.



# 感想

- ▶ しかし ACSI については、会議の設計以上に、その考え方や意義を共有できなかったことが、投稿や参加喚起につながらなかった一因 (主要因?) と考える
- ▶ 日本のこの分野の規模を考えると、研究会をまたがった連携は必要; それをするならば、ある程度のまとまりは必須 (心から賛同するグループだけが集まればよいという程規模は大きくない)

## 考える会のころ

- ▶ もう一度議論しなおしても「全員満足」という結論が得られる保証はない

## 考える会のころ

- ▶ もう一度議論しなおしても「全員満足」という結論が得られる保証はない
- ▶ → オープンに物事を進める; 結論有りきでない議論をするのが大事

## 国際会議を提案するなら...

- ▶ 「日本中心」の「国際会議」を作る目的・青写真を明確にする必要があるとおもう
  - ▶ 多くの場合、「既存の国際会議に出かけていく」方が、国際的プレゼンスを高めるにはまっとうな方法
- ▶ 国際的にカバーされていない分野にフォーカスされた会議を作りたいのか？（一番わかりやすい；だがそれは割りと狭いところにフォーカスした会議になるだろう）
- ▶ 地の利を活かしたいのか？
- ▶ 業績カウント可能な「国際会議論文」を増やしたいのか？
- ▶ 国際会議運営の練習場なのか？

## 旧 SACSIS 形式がいいなら...

- ▶ SACSIS が一旦なくなった今，もし作りなおすなら「国内査読付き会議」の意義に改めて合意しないとイケない
- ▶ SACSIS をそのまま続けていても減っていた可能性はある